

西 洋 旅 案 内

下

西洋旅案内卷の下

福澤諭吉 著

太平海飛脚船の立寄場所

太平海の飛脚船ハ香港より亞米利加を通ヨ歐羅巴までの間を往来をあものよて日本一モ其往来ふ立寄ひと二度あり但一香港と横濱とみ途中より上海へ立寄ぞ横濱より上海へと別ふ仕出にて上海へ立寄ぞ横濱より上海へと別ふ仕出ふ行す歸るハ先ニ香港一行一船と横濱より出逢ふ趣向をせまゆふ上海へ通ふ船に乘きハ横濱

と長崎との間で便船も出来べし香港を出帆して
横濱ふ寄る夫よサンフランシスコへ往来をは
船ハひきまで唯一艘より一年又四度の往来をは
せも追々に新船出来船を一月ニ一度又ハ二度ふ
きりふべし先香港より横濱と着それが二三日逗
留一船の仕舞出来次第直ふ出帆を

横濱より亞米利加ビサンフランシスコまで道程
凡二十五百里船中二十二三日ふく達矣この二千
五百里の海と即ち太平海より世界中一番廣き大
洋ありサンフランシスコと丁度日本の真東ニ當

る所今まどもこままで同處一渡海をす船ハ潮の
流又風の模様ふ由て往路ハ此の方を廻り歸路
と南の方へ寄りし此度の飛脚船ハ格別の大船
にて蒸氣の力強く帆前を頼むせざるゆ一此大洋
と真直ふ乗切て直よサンフランシスコへ着を渡
海二十二三日の間ハ山も見矣嶋も見矣茫然と一
て空中と行く如一波風を立夜甲板よ出そ月と
詠などまれば其景色淋しくもあり面白くもあ
りふんと以く人の氣分を引立るそのなり○途中
ヨサンド井チといふ島あり模様次第みてふくふ

立寄るひともあらず

サンードヰキハ日本と亞米利加との中程にて少
アリカリ加の方へ近き所ある寫國シマカアリ一軒此邊
ハ熱國の場所柄なども其割合カタチにて凌アツム
產物アソブツ硫黃砂糖綿烟草草半の類其外小麥も出来る
由ヨウナリ○今より八十八年前英吉利船將カビタニ
コックといふ人初て此島シマカを見出スル其節セイゼツ島人の數
三十萬人サンマツブンもあり一由ヨウナリとも其後年ヒテニ鯨獵クジラサム出
て歸カムらむ者ヒトも多キ又ハ痲瘍マラヌをど流行病ヨウリにて人ヒトを
の數追スルふ減マサニ一當時トドケル十萬人サンマツブンも足タメらざる位カタチあ

王クニさまで島シマふ王クニあり其家の名ナミタメハマタメハマハと
いふ住居アトリハホノレ、より→港シマカふあり矢張ヤマツタク國王
の格式カタチみて既シテ西洋シマアフリカの國々クニとも條約トウガクを取結トクシキベ
政事向シマトモ并シテ年貢シマタモの取立方等シマタモハ亞米利加人アメリカヒトふ頼タマ
島國シマカとて世間シマジンは慢アラタらるヒトモト殊シマヒトふこび島シマ
みてを多年外國人シマヒトニ附合トクシキ追シマシマよ物事シマシマの道理シマシマと知
て近來シマシマハ處シマシマくふ學問所シマシマと建英吉利シマシマの語シマシマを誓古シマシマせ
モ○嶋シマ人の風俗シマシマハ甚シマシマ見苦シマシマ一色シマシマも黒シマシマく大抵シマシマ跣足シマシマ
裸シマシマ軀シマシマ住家シマシマとて床シマシマもなき小屋シマシマ掛シマシマアリ斯シマシマく穢シマシマき島人シマシマ
の中シマシマも賣女シマシマあり十人シマシマと十人シマシマ皆シマシマ病シマシマの有シマシマ

由リテ一目見ても驚くほどの品物ヲ至る旅行の人々
固より心得違ちるまト事こと以まども用心を
べー

サンフランシスコへ着キバ同處よりパナマヘ
の飛脚船ハ毎月三度つく出帆モはゆヘ丁度行違
ふて一順乗後り、とも十日船待すモ次ノ船ふ
乗リベー若リサンフランシスコへ逗留されバ見
物の場所甚だ多ニ

サンフランシスコハ亞米利加合衆國の内西の方
小島ふカリホルニヤ州の港より太平海の海岸ヨ

一番大をふ港にて入口の中一里ニ足を内ハ入海
となり長さ三四十里巾六七里半月の形ちふ廣ま
リ千艘の船入津をとも差支キ其入口と
コラルデシゲイトより右の陸地ヨボルトボ
イントアラキボイン止ミテ二所の臺場あり左手
ヨハアルカトラズといふ小島あり此亦臺場也
て此三所の臺場ヨハ近來新エ夫の珍一キ大砲を
据付玉の大さ一尺二寸ヨリ一尺六寸をあらヒ一
里半斗の所も届く由みて要害堅固致モ○カリ
ホルニヤ州ハ元メキシコの領分なり——彼國の

西洋の事
千八百三十九年即ち日本の大正十年土地の人謀叛と起り彼是と穩めらざる内に八年を経て彼國の千八百四十八年即ち日本の大正元年ふ至り合衆國よアメキシコへ金と拂てゐる一州を買取永久合衆國の領地となり候程よく產物甚だ多く金銀銅鉄水銀石材木五穀菓實牛馬豚羊ふ至るまでをみひとつ不自由あき國より此土地を合衆國へ買取るときまでハ人の數もあり多うらぎで丁度其頃金山と見出珍しき渡世の道出来をあは付諸國の人追ふ入込日ご月ご山其

人數増して遂に金山渡世の者斗り十四五萬人の數となり金銀と掘出をことり亦夥しく毎年五千萬ドルラルの高と諸國へ積出にて世界中金銀の相場を動かすやどのひよくて土地の繁昌一方今うち此節ふても一七日の間に七十萬兩余の金銀と掘出をといふ就てモサンフランシスコも初ハ琳々所より百姓家の六七軒もある小村をマリカモ僅十七八年の間、數萬の人家建なうび産物の道次第開け近來ハ羅紗ブランケット等と織工所あり銅鉄の道具と製工所なり金

銀の小間物を作所あり砂糖と製酒と造て港
小ハ諸國の商船錨と卸して一年の間ふ船の出入
二千艘余運上を取立る高二百萬兩より下らを實ふ
太平海の東岸より比類無き大都會と以テアハ地
起立以來度々火災ありうども火事の度毎
小新ニ普請にて家並ハ以前より多く有れり其
一二を擧へいともふ運上所と建て六十萬兩を
費一金坐の普請小二十二萬兩海軍の養生所と建
るとき三十萬兩を費せり又メトロボリタニと
いふ芝居あり大會が構ふく見物人二千人を入る

ベー其外寺學問所諸問屋宿屋兩替屋等の大造な
るハ推て知ふべー余がサンフランシスコへ渡海
せ一月萬延元年より今より僅七年前のめとなり
ノジ今茲再其地小行て様子と見るふ以前ニ一陪
ノたる繁昌なり○前よりひ通カリホルニヤ
ハ新ふ開けたる土地にて世界中諸國の人寄集り
先と争て渡世の道と勵む場所なり既ニ支那の人
も此國を金山と唱へ先年より金掘の渡世ふ出掛
る多くの多く一錢より國を出四五五年も辛抱して
相應ニ元手をこしらへ本國へ歸るも代もあり又

在此地小店と出一て生涯居附ものもあり此様子を見て考るふ日本とカリホルニヤハ正一く西東向合の鄰國殊々此度ハ太平海の飛脚船も出来僅二十日の船路ふく彼地へ渡る度々江戸うち長崎へ道中をかうりも手輕のめぐをき日本の人も追くカリホルニヤへ出掛元手あるき我が交易商賣をとどめ元手ぬましは金山の渡世をして遂ヨハ身代を仕出者多かふべ一此亦日本開國の恩澤ある

サンフランシスコとニウヨルクとの間陸地の差

渡一東西千六百里余の間ふ蒸氣車の道と造る過半出来てひの後三年の内には不殘成就をべーとの様子乍然上ハ日本より亞米利加へ行ふ小船路二十日ふてサンフランシスコへ着くヨリヨモ蒸氣車ニ乗て千六百里の陸路を六七日みて越そべりき海陸の旅行一月ふ足ら矣一てニウヨルクまで達モベーカキども右蒸氣車ひ成就をすすで失張パナマの地續を通るゆへ其道筋の摸様左記を庵一

サンフランシスコにて船を乗替へ南の方パナマ

ヨテ九千五百里十二三日斗の船路より途中カリ

ホルニヤ并ふメキシコの地方と左手ニ見るカリ

ホルニヤの海ハ四月も至十月頃までの間北西の

風強く時候涼し夏も夜分ほども綿入を着る

位且其海岸を霧深くして甚だ一氣をきを船

の艤装を舳のまわり見ざることあり航海者の心

配す所斯く八九日渡海してメキシコ領の

アカポルコといふ港小着矣

アカポルコはメキシコの都より南西の方九十里

斗の所す爰昔々繁昌き一場所なりしらども力

リホルニヤふ金山と見出一てサンフランエスコ
の港盛りニ從ひ遂ふ此地ハ衰微一當時ハ人家
も少く土地ニ出来る產物とても乍一時候ハ暑く
天氣不揃り上陸せばよぶ多干の用意をべしよ
き天氣みても直ニ雨の降るのみあり飛脚船ア
カポルコの港ニ錨を卸すふと三時斗ふして石炭ア
岸を過ぎ中亞米利加の岸ニ沿てパナマニ着モ此の海
邊の海岸すハ夏分強く雷の鳴ることあり船中ふ
て雷鳴ハ随分氣味あるききのあり

ハナマは遠淺にて本船も一里半斗沖小掛（さうぎ）と小船
みて上陸を殊（こと）ニ此邊ハ汐の満干の多き所（よしれ）と涸
汐（しお）一丈七尺大汐（おおしお）二丈二尺も差引あはゆ
へ小舟とても汐時（しおどき）ニ由て動（うごき）けらることあり○上
陸場（じゆばう）小舟がきが陸ニハ既（そな）蒸氣車の用意（ようい）あり
て二十里余の地續（つづき）ニ二時斗（さかど）通越（とく）一亞米利加國
此邊（こちら）の向側（むかわ）出（で）きふ所（ところ）をアスピンウラルといふ總て
國の領分（りょうぶん）にて赤道（あかみち）より北（きた）の方八度斗（さかど）の所（ところ）小當（ことう）
北亞米利加（きたあめりか）と南亞米利加（みなみあめりか）との界（きさく）をう時候（とき）ハ暑（さう）く

春夏秋冬の差別を一四月の末（すゑ）十二月頃（ころ）まで
と雨の時節（じせつ）にて毎日雨（あめ）が降ること夥（ひだり）しく家の内（うち）
ニ居ても濕氣（しき）深く衣服膳椀（いふくせんわん）小懲（こわい）の生（う）めど日本
の梅雨（うめあめ）よりも甚だ一斯（これ）る暑濕（しょしつ）のたり折（おり）々熱病（ねつびやう）
流行（りゅうりゅう）ることありハナマ熱（ねつ）とて惡症（えきじやう）あり旅行の
人よく用心をべ一通行（つうこう）のとき一寸休息（きゆく）ふどもる
所（ところ）へ土地の者共菓實（かじつ）又はりモ子イドとて氷の水（こおりのみず）
砂糖（さとう）と橙汁（オレンジ）と交たるを賣（う）來（き）まいうふも味よ
く覺（おぼ）きども暑（あつ）のあま里（まいる）用ひ過（すぎ）べうら矣（う）又
蒸氣車の内（うち）小色（いろ）の酒（さけ）を持来て頻（ひん）く客（きゃく）へ勧（すす）み

とあり價もやも一ト甚ども大抵贋物も一ロ也
飲ひべからゞ何處も皆熱病本小なふもみあ
心得べー○土地の人ハ愚も一ト政府の世話も不
行届すり其一例を舉ていこん四年前パナマ
痴瘡の流行一て一萬人斗の入數の内ニ千人余の
死人ありと其次第八土地の人疑深く一て殖産
瘠の法を信仰せし政府よりも其世話をきも一て
斯く大勢の人物と落しをひき此地續と越え
蒸氣車の路ハ彼國の辛亥五百十五年即ち日本之
安政二卯年ニ成就セ一キ計小て其長さ二十二里

余あて途中を不残山ふてパナマより五里斗の所
殊更ヨ高一海小較甚ベ其高ニ二十六丈あり一
小パンマよモ次第上て小道と附ケ坂の急なる所
モ一里ニ付十二丈余の勾配あて登坂ニハ蒸氣
車も遲一夫ヨモ又段々小進めを下坂とナリチヤ
グレスといふ河と越そ小鉄の橋アモ印度海の
道と通てスエスの地續を越セとき其土地大抵
砂原ふて草木少く年中雨の降るふく砂埃ふ
困るやぐれふくパナマの地續ハ丁度其反對ふく
半年代間ハ雨も降續き一休ニ雲霧深ニ濕氣地を

モ澤小枯草なく木ニ紅葉以一往来の時蒸氣車の
内ヨモ詠シバ四方の深山青と一テ樵夫の跡も
見モ谿水の音幽々聞一見馴ぬ鳥の古木小啼キ其
景色いふも寂寥モリ獅子虎蟬以ども此奥山不
こそ住むことあるべ一と思モ○途中處ニ木二
三軒又ハ七八軒づく人家あり其様子を見る木
葉にて屋根と葺マる小屋掛の内ニ床もなく掘立
の柱より柱へ網のよみれる釣床を掛けり夜分ハ
此處よ寝ることなしベ一子供の十才也すとおど
ハ皆丸裸躰小て大地ニごろつき豚犬の友達あり

婦人ハ腰巻一つみて立ちガラ物と食ふもあり大
の字ナリふ寝するも行マヌ裸躰の子を抱て乳と
飲そば者もあり思ふ此子も此母の子と相違モ
形々速ども聴キ一人の爺又あせて生きたるきの
ク其邊ハ甚だ覺束々

アスピンウヲルヨテ蒸氣車ヨモ下り直ニ船ニ乘
て出帆モ但一此港ヨモ直フ歐羅巴ヘ行く飛脚船
モヨリニウヨルクヨ用事有者ハ此船ニ乗るベ
モノアスピレウヲルヨリニウヨルクまで千里ニ
足らモ七八日ヨリ着そめの間の海ハアタラ海と

のふ大洋を渡海の中程小ジヤマイカサレドニ
レゴバ、マアどいへる嶋くの間を通スジヤマイ
ク、マハ英吉利の領分ふて產物トヘ塩胡椒比
類アミ又左手ト西班牙領のキュバといへ島と
見るこの嶋ハヨ不道廣一產物を烟草砂糖世界中
一名高き名產ナリ○アスピニウラルと出帆して
ルの嶋くと通モモギ次第又冷氣ニ返ス凡暑さ
の甚シモモバナマの地續と通ス前後五日づく
シテ十日あきりの苦ふモ
ニウヨルクへ着モハ市中の模様宿屋の取扱いど

も歐羅巴の諸國と同トことなりひの所モ亞米利
加合衆國の内一番の大都會みて世界中ニ人の多
至都と計甚モ英吉利のロンドン佛蘭西のパリス
支那の北京日本江戸亞米利加のニウヨルクと
て誰知らざふハふき繁華の地モ港ふ萬國の
商船橋と連々林の如く川蒸氣船の往来モハ木
葉の水よ流るが如一屋形造渡船とヘレボウト
ヨリヒ大船を引く蒸氣船をタグボウトゆいふ出
帆する前船あきへ入津モ蒸氣船あり歐羅巴
うア來る飛脚船あり印度海へ行く軍艦ありい

利をあことち人ゝ翼を附たるが如一實ふ世間知
らを田舎者一のみ有様と見せふば人間世界と
も思ふざるべ一○斯くニウヨルクの繁華ハロニ
ドシハリスふもおとらぬほどみて市中の混雜一
方れども時々間違のことゝもありふよ付町くの取
締嚴重キテも土地の繁昌をす小從ひ自然ニ惡
黨も多く夜盜押込そりかきり火附人殺も間くあ
るみと乍きが初ての旅人ハ別一て用心すべ一且
合衆國五六年前より南北の合戦ニ莫太の金子
と費したる付近來を諸運上の高と増一通用金

ふ廣き川口すも竿一本横たふべき透間以一陸ふ
ハ數十萬の人家五階六階ふ建ふらび間口數十間
り大店は端物とかざすをふ呉服屋もあり手狭き
店ふ金銀造の小道具又は袖時計などうちべきる
小間物屋もあり一町内皆大家みて表通の静ふる
は両替町すり野菜山の如く魚肉林と爲して入聲
の喧しき多市場すり車ニ来て芝居の番附を觸る
もあり四辻小不一見世と出一て往来の人を招く
きなり市中と往来をはふる馬車ニ乗り速方へ行
く小蒸氣車より百里の路も日返ふ一て其便

の代々紙札を用ひ以て諸色高直何品より
ぞ六七年前の直段ニ較きぞ二陪三陪と乍下く
の者の難渋ハ勿論他國より來て買物をもる少ち
ふ都合

不都合

合衆國の合戦のみと記もきこの冊子の趣意ニ
あらざれども此節彼國へ行々が其話多く合戦の
前ハ斯くあり一合戦の後も斯くあり此も合戦
ニ由て出来ること彼き合戦の時より始りこと
など一寸一寸した話の場合も合戦のみと知ら
ぞ一て何事も分ら矣不都合のことごもあるゆ

一其始末を極めらす一ふ記をこと左の如
合衆國の内南の方の國より百姓多く農業と勉
め麥綿の類と作玉北の方は國より職人の業と
専と一蒸氣仕掛けとみて色々の物と製一商賣を
勵む風れり然る所昔より南の方の國よりア非利
加の黒奴を買ひ生涯年期より一て養ふ農業の働く
よ使ふ仕來なり一ぶ北の方より心ある人くの此
仕來と甚だ好まずいふ黒奴とて人と生涯年期
ふして牛馬の様に使ふを天の道理と戾ふことを
よとやうすくりひくらひくらひくらひくらひくら

方ふてを今更黒奴とやらふをねだむと差支る
ゆへ中くこきと兼知て彼是よりて數年來北と南
とも不和なり去る萬延元申年の冬ニ至る合衆國
大統領の代替ニ付次の大統領と入札にて人撰せ
一所リニコルンといふ人へ入札の數多く一て大
統領セキリーダーリンコルンを固よア北の方より左
祖モル人みて黒奴の一件ニ付てを兼て議論ある
ムと斯きハ南の方みてハ此人を大統領ニモスと
好す色くいひあうとして遂ニ南の方のサ
ウスカロリナよりア一州合衆國へ叛きテ明る

文久元酉年
の春「ミッシビイ」「フロリダ」「アラバマ」「ジラ
ルジヤ」「ロイシヤ」「テキサス」「ルージニア」「アルカン
サス」「ノースカロリナ」「テンニシイ」の十州もサウス
カロリナふ興り一味の國に十一州より師を起し
政府の武器庫ふど奪取てリチュモントといへ
所ふ都城建ディエボスといふ人を頭取りて合衆
國の支配を離き別ニ一の政府を建んとの企にて
合衆國北内南北二分き大合戦の世と
南北の内ふて南北二分き北と北亞米利加の合衆國
米利加と南亞米利加と北と北二分された了なり北亞
米利加と南亞米利加と北と北二分き北亞米利加の合衆國
北の方より北亞米利加の合衆國

早速軍勢を集め追々其人數と増一て百萬人ふ近
至大軍と乍りて頗る征伐の手配と運らせども南
の方を中々手強く且ち英吉利佛蘭西アモ内々
こきよ力を添十一州の軍勢五十萬人斗ふて度々
勝利を得て遂に北の都あるワシントンへ間近く
攻寄せ成年の冬頃より北の方よりほど危き模様なり
一が其後追々勢を取戻一慶應元年三月ニ至
テ南の勢次第ニ衰て大將分の者も段々小降参
其頭取あるデイ井スをも生捕彌爾ニ北の勝利と
如りて遂ニ又太平無事の春ニテハモナリ合戦の

終らんとをは前々兼て南の方より下みて北の大統領リンコルンとだす討に一首尾克てきと
刺殺一されども合戦の勝負既ニ定をふ後のあと
ふく南の謀も水の泡となり徒ニ一人の英雄を殺
左のミリンコルンを合戦の始より大統領とな
り千辛萬苦より國事の多端なる不堪へ事を決するニ勇氣あらず人と使ふる慈悲あらず上も下も之
ふ歸服せざるを以て一ダ斯く非命の死を遂
々一付ても國中の悲一方ふらぞ父母も喪をあ
が如くケリトイふリンコルンの代ふハジヨン

ソニとりふ人大統領とヨリ合戦の後より今日ニ至るまで専ら國中の取鎮をあせミ實ニ此度の合戦ハ古今未曾有の大軍みて南北双方の人數合て百五十萬人五よ秘術をつくー或ハ鉄張の軍艦と打建或ハ地雷火水雷火とユ夫ー大砲小銃世界小珍らーと武器と造て四年の間數十度の戦場る骨と暴ー血と流ー討死手負其數を知らず子年の春井ルデルニスといふ所リと北の大將ゼ子ラルグラントと南の大將ゼ子ラルリイと戰ひーとむち二日の間小敵ニも味方ヨキ討死の數一萬二千人

餘ナリ一といふ○又合戦の間ヨ軍用金を費モシタル夥しく毎日の入用百二三十萬ドルラルあり一ニヤモアモ就き諸運上ノ高ヒ増ーたきども尚引足らずして成年の春ナリ紙札を通用キリヤキども元正金の不足モることナリは此紙札セ通用アーく正金半分比價シモ好ラズ子年の夏頃ハ正金百ドルラルと紙札二百九十九ドルラルと釣合相場ナリ左合戦後の勘定ふ合衆國政府の借財二十七億九千九百九十九万ドルラルナリと○南の方より名高き大將ゼ子ラルリイゼ子ラル

ジヤクソニ等北の方の大將みてハ「ゼ子ラルグラン」
 ニ止ゼ子ラルシヤアマン等をミ南の諸大將其外
 り者も合戦比後何きも謀叛の罪を赦ムきて差構
 ル一當時と合衆國みてゼ子ラルグラントの評判
 甚ざ高し今の大統領ジョンソン来る已年の春交
 代の期限小あるゆへ其次ヨハグラント大統領と
 ハアベーとの風説をあり
 右も合衆國合戦の大略をマ尚委一年ハ近日開版
 の西洋事情第二編ニ記モハ
 西洋旅案内卷の下終

西洋旅案内附錄

商法

世界中ニ旅せんと思ふ人の本編を見て略其手
 繢シ知り外國の模様も大概分一あらうべくさ
 まども外國へ旅行するにて用事ハ游ニ
 行く者も又何思學問の執行う又を商賣のため
 年ふ六七百兩の入用と掛け自分の誓古一式にて
 外ニ心配ハキども今外國へ行て交易商賣と
 せんハ略彼國の商法を知らざる必ず不都合

至る且商法のことを外國へ出交易をはす者半ニ限
らを日本へ交易場にて外國人と取引をす者とて
き同様の訳みて大略其振合を心得を一て多損を
せしむ濟むふとふも損をすることあるべ一詰り
日本國の損をうこれを譬へ素人あらどが圍碁ニ同ド
そとひ練磨ふて上手うまい様よう見るとも碁の定石を
知らざるゆへ生涯生業ざる碁の仲間なかまを免まぬぐ右の次
第二付今この巻末えつに彼國商人の取扱ふ金の取
引商賣船の雇方海上荷物の請合方等商法の大略
三四箇条と記して本編の附錄とさせ玉固り日

本みて町人の商賣商業の眞劍勝負きじゆぶにて其加減差引
精密と極め余輩の傍そばよ被是と議論ぎりんをまこと
萬まんくあはせども世間せあんふち新出来の商人うりやうじんをあす又
ハ素人あらうと町人の真似まねをせんとたる者ものもころべ
々せば其人ひとの爲ためふも外國交易の定石じょうせきを知しめ
んと欲わづるのみ

コンシェル勤方の事

コンシェルと其國の政府よりひ付らば外國の
港へ勤番こまんして本國より交易こうぎニ來る商人しょうじんの取締とりぢ
そる役人わくじん以よつ其商人等外國ほかのくににて難題なんだいを蒙くわ

ことあれどコンシユルたらん者へ其國と取結し
條約の理合と押立港の役人と掛合て其難題を救
はるべからず又其國人ふ罪を犯せ者あり其仕
置とをること出来されどもられ代召捕て本國
へ送返を大のこととい取斗ふ雇ー但く其國人のみ
トニ付港の役人と掛合を盡して事落着せざると
きハコンシユルの上役ミニストルを亦者ありて
ミニストルより同國の政府へ談判する旨を譬へ
同ト外國の首府へ勤番をす由へひきへ持出一そ
を支那ふても上海廣東其外五箇所の港ニ諸國の

コンシユル勤番にてミニストルを其首府形る北京
ニ住居せよ若一右五箇所の港もトコンシユルと其
地の奉行との掛合向決斷一難きことあり北京
のミニストルへ持出一ミニストルと北京の重役
との談判みて事落着々及ぶゆ○本國の商賣船
入津モ其船主より船の書附積荷の目録等を
コンシユルへ渡一コンシユルよりこれを港の運上所
へ差出一荷揚終て出帆のときも運上所より出帆
の免状をコンシユルへ渡モ都て此等の世話を承
るコンシユルの役前めり○コンシユルの役金ハ本國

の政府より支出したるものもあり又は其國の商人より
世話料と取るものも有り但し商人より世話料を
取るのみみて政府の役金を受ける者はコンシユル
の役義を勤め傍ニ商賣をするとも差構ナリ

兩替屋の事ハシク

西洋の商人も自分の手許に正金を置くこと以
て皆此金を兩替屋へ預け入用のとおふ受取又は
他人へ金を拂ふよと兩替屋の手より其人へ渡そ
仕法小きり其便利あることを擧ていこんど一ふ
を金と大大夫なる兩替屋も預けを紛失の心配な

1 二より正金を方々へ持運せざるゆへ盜難の心
配至る三より人と金を取引をばふ金性の善惡と
見分け數々と改る手間を省き就てハ店の人數と減る
て入用を省くべ一四より手許の金をかゆへ番
頭其外召使の者小引員の出来ること以〇金と
兩替屋ふ預けを先自分の名前書判を店の帳面小
留置く然る上と兩替屋より當人へ金の預高と記
したる小帳一冊と別よチエックにて短冊形の切手
二三十枚横帳ニ綴キ當時を渡せ即ち小帳を金
子預の證據を右初右の如く二冊の帳面と請取主

其後金の入用あるとき横帳の切手一枚切て
こまふ何程の金高を請取と認め書判を記して兩
替屋へ送る正金と引替ニそ又他人へ金と拂ふと
さむ同ドろとふて誰くへ何程の金と渡すべりと
記して其當人へ切手を渡さる當人ふて兩替屋へ
行き金と請取べ一兩替屋ふくへ唯切手の書判と
證據ゝそるゆへ先ニ店の帳面へ留置一書判と引
合せ相違ぬとき誰もても人の額よハ構ぞ金と
渡すことなり斯く追くる金と請取る間よ又此方
より預ることあれぞ例の小帳と持參して其預高

と記させ置き最前の振合にてあきと受取る右の
次第にて金を預る者へ取引の手數を兩替屋ふ讓
且受取渡しニ付間違あき此亦兩替屋の引受
を足ゆへ此方ハ安心にて商賣る取掛べ一〇金
と兩替屋へ預達を商賣人の身ニ取て格別調法を
ることあり其次第を兩替屋と取引の仕様にて已
が身元の正きふと世間へ吹聴をは術よもなし
又他人の身元と聞札を手掛けば術よもなし
上よ火切あることなり〇兩替屋を大丈夫の
土藏あるゆへ得意先の人ハ大切の書附類其外金

仕法二通あり其一へ一年の間取引をもと始
終兩替屋の方へ金の残る様より其金と融通を了
利分を兩替屋に取て別ふ世話料又一の仕法
と濟世話料と一して一年に惣金高の八百分の一
又ハ四百分の一と取ることあり八百分の一と
八百兩付一兩を四百分の一と四百兩付
一兩其高下の時の約束次第乃るべし
爲替とも遠方へ金の取引と便利をもと爲めの手段

今譬へて佛蘭西の一助より英吉利の二助へ
三百兩拂ふ庵き金あつ然そ所英吉利の三助ハ佛
蘭西の四助へ二百兩同五助へ百兩拂ふべき約束
あるこきふ由そ一助より英吉利の二助へ正金を送
らぞ一て佛蘭西の四助より二百兩の手形と五助
より百兩の手形とを買く二助の許へ送まへ二助
を此手形を以て三助より三百兩の金を受取べ
故よ兩國の間ニ正金の持運をせしめて双方の取
引皆濟むべし〇右の爲替の大趣意ふと兩替屋の
取扱もあり又平の町人よりも身元者を自分

手形と出先近來へ其仕法追々手廣くあてて品
物の買主より賣主へ代金と拂ひ遠方の人へ借財
を返済するふも皆爲替と取組て正金の遣取を甚
だ稀なり○爲替手形の文言左の如く

見

一 畿々畿百あ也

古者燕支高車胡北國之族也何莫不す

古者猶未有也

内日

場所附

名宛

場所附

姓名書判

右へ一國の内ニ通用をば手形の書様外國と
爲替を取組む仕法并ふ手形の文言を上巻の初
記せり

商賣船雇入の事 ナヤルトルバルナ

商賣船を雇ふる日數を限リ一艘借りニするこ
ともあり又ハ半分借るふともだ左ふ其證文の
一例と記矣ゆへこきと見て一舶の振合を知るべ
此雇船と帆前船みて英吉利の都ロンドンより
西班牙の港カヂスといふ所へ乗廻り同處より羊
の毛を積モロンドンへ歸るまで借切よしたるも

のなり但一ロンドンよりカヂスナまで海上五百
五十里斗なり證文中有り船賃の高を見送バ大
凡其割合を名ふ所

雇船の證文

一フリイドハ船の船頭エドワルドとロンドン
の町人口スと雇船代ことみ付双方左の通す取
極た王但一右船ハ百四十トニ積みて當時ロンドン
の川口ふあヨートンハ六石余ニ當るロヘ
此船を大丈夫ニ渡海をべきを以て此度
カヂスヘ赴キ羊毛六百俵其外の荷物も船相應

よ積込てロンドンへ歸モ荷主の差圖通り何處
の場所よりも荷揚矣べ一船賃を羊毛の正味二百
百二十四斤入十目なり一俵ニ舟十四シルリ
シング銀十シルリレグと外荷物の運賃も同様の割
合ふ且荷積り手數銀と一て總運賃五分を
増一賃銀拂濟の上荷物を引渡すべ一海上
不時の災難と双方共に差構なく船を損失ば
船頭の損亡と一荷物を損失を荷主の損失と
る所一
一船賃ハ荷揚のとよ正金にて半高渡一残半高ハ

荷揚の日より三月の後ふ正金と受取べき手形

を渡せべー

一カヂスにて荷物と積ロンドンへ積廻して荷揚
せよまで船の働く間を四十日と定む但しあの
日限のカヂスへ着船して荷積の用意出来日
より計ふべー又荷積荷揚の都合ニ由て日限よ
り長く船を引留るとも十日と限と若一十日
と過ぎときも一日ニ舟三ポント一ポントを三
當三セルリングと船頭へ拂ふべー○若一ひの
約束ニ違背するときと三百ポントの過料を出

一船の下積ニするものと鉄石、小石の類にて砂
泥の如き荷物ニ害あらば其と積ひべらう矣又
荷物と積む小も品物の損せざる様程よく積込
むべー○カヂス小小船中の入用もあるべし
付船賃の内百ポントと爲替小取組こまと船頭
へ貸そべー
右の取極相違ふまなく互に調印をさせなう

右の通り同文言の證文と二通認て船頭と荷主と

互に取替ることなり

積荷請取状の事ビル・オフレイディング

商賣船を借切小ちぞ一て荷物のミと積込むと
て船頭より其荷物の受取書と出をこまと積荷受
取状といふ萬一荷物紛失等のふとあれを此受取
状と證據小一て船頭へ掛合ふ庵一今ひくよ一例
ありこまことロンドンより魯西亞の都ペイトルス
ボルフまで更紗并ニ毛織物を送一ときの受取状
致り

二印荷物 覚

一番より十二番まで

當時ロンドンドックよりへる船入の場所へ繋げ
るラヂペイルウ松の船頭コビンなる者乗込
ペイトルスボルフへ赴く付商人ブルックスの
荷物更紗五箱毛織物七包前書記号番附の通り
慥ニ請取右船へ積込船中にて荷物の損せざ
る様心附け積込のとき同様の形にてペイトル
スボルフまで送届同處ニおもて運賃三ボント
ト十八シルリングと別ニ荷積の手數銀五分の割

増と請取事一上にて商人バルトンの組合へ荷物を引渡すべし但一海上不時の災難と船頭の引受小あら矣石約定の證據として同文言の請取状四枚を渡す付此内の一枚と以て荷物と引替ニされど残三枚ハ不用たるべ

月日口ニドン年
右ハ帆前船にて荷物を送ることゆへ運賃も下直なし飛脚船ニ荷物と積むトホト其運賃余程高
佛蘭西の飛脚船にてマルセイユより横濱まで

船頭コビン書判

荷物と送るふ其賃錢凡一尺立方の物トヨ三十
フランク又重き品物ハ目方にて運賃と定め百
斤ニ付百二フランクと右但一斤の目方ハ
百二十目ニ當り一フランクモ銀八外余ニ當る
金銀相場の價々上巻の通用
亞米利加のニウヨルクより横濱まで荷物を送
るふ飛脚船の急便以きど一尺立方の物トヨ四十
ドルアル二分又重き品物トテ其目方一尺立方
ニ付四十五斤の余ニ上きバ目方にて賃錢と定
め百斤ニ付九ドルアル

ル テル 半 よ 五 ドル テル 蒸氣船 全 き と 六 ドル
 ル テル 半 よ 五 ドル テル 蒸氣船 全 き と 六 ドル
 英吉利のロンドンへ綿茶を送るふと 一トン又
 付三ボント又三ボント半ポントハ三キロ
 付一トン又付四ボントよ五四ボント半
 亞米利加のサンフランシスコへ 一尺立方四
 十坪ニテ六ドルテルモリハドルテル 蒸氣船 全
 き ば 同 斷 付十五ドル テル
 同ニ ウヨルクへ帆前船以 き へ同 斷 四十坪 = 付
 二ポント半 よ 三ボント蒸氣船 ふき ば 四十五

同 飛脚船 の並便 なまこ 一尺立方の物 = 付二ド
 ル テル 一分五厘目方の品と百斤ニ付四ドルラ
 ル 半但一火薬金銀其外硝子の鏡等損 一やをき
 品ハ別段ニ運賃と増を
 横濱ヨリ諸方へ荷物と送る運賃左の如
 上海一蒸氣船ふき ぞ 絹糸一行李ニ付三ドルラ
 ル 半外荷物ハ目方一トン又付五ドルラルニト
 ニ百七十尺立 方四十坪 にて三ド
 ル テル 付四ドルラル一尺立 方四十坪 にて大
 香港へ帆前船あき と 一尺立 方四十坪 にて同
 一尺立 方四十坪 にて四ド

右運賃の割合ハ商賣の摸様ニ由て時々高下の違
ある四へ極をふものと思ふべうらを

商賣船質入の事

商賣船又ハ其積荷と引當小一て金を借りあとあ
渡海中ニ難船それぞ金と貸したる者の損亡た
るべを約束形り斯く危き引當を了ゆヘ高利と取
ふとも國法ニあるて差構ふ一 大抵二割半より三
割までの利足と取る都て西洋諸國ふて多金の貸
借ニ其利足三分より五分と限セ一五分より高き

と高利と名く○斯く金子と借て出帆一其船途中
かて破損それを余儀なくこきを修覆するふ又其
荷物と引當ふ一て金と借りあと然うとまことに
兩度の借金を返済するふ後又借する金を先ニ返
そと以て常法と矣其次第ニ二度目の金ぬく一て
ハ船の修覆も出来ぞ行くべき所一行く庵うらば
アーヴの訳なり

荷物送状の事イニウライス

送状セキ遠方の人ヨリ註文を受て品物と買ひこ
きを船小積と先方へ送るときの書附あり其認方

左の如ノ

ジョンソン組合より綿五百俵とジュリヤ船の一様此
船頭ゲレイ名者よりリイウェルポウル 英吉利の港の名 の町人ス

ミスの組合へ送る荷物の送狀

一 壱万四千四百ドルラル

綿五百俵代

目方九万三千五百斤但シ壹斤五角五分セント之

一 壱万四千九百六十ドルラル

同式五百四百俵代

目方八万六千四百斤但シ壹斤五角四セント之

俵數合五百俵目方五角八分

代金式万六千五百二十指六十ドルラル

一 六指式ドルラル本 品物買主一仲買の口残を俵二斗

搭式セント半

一 四指ドルラル

着主貨車五俵ニ廿八セント

一 ニドルラル本 貨用

一 式万六千式百四指式ドルラル

一 五四指九トルラル五指八セント 荷物運送費を組合より付料總

高四分五割合

總一千式万七千式百九指式ドルラル五指八セント 一セント二ドルラル
百分の一不

月日ニウヨルクより

ジョンソン組合書判

賣捌勘定書の事 エッカラント・セイル

人の荷物と引請てこきと賣捌き其勘定を荷主へ
送る書附をア荷物賣捌の世話料と其時の様
由て定め難い荷物引請の商人曰家ふて世間ニ名
の通玉たる者るもバ世話料高く賣捌をム惣金高
内二分又ハ二分五厘時々一にて多三分も割
合を取ることある新家の商人左れぞ世話料も自
らヤモリ今ひくふ伊太里の港シドニの商人英
吉利の人より麥酒と引受てこきと賣捌き其荷主
へ送マ一勘定書あリ

船頭スマス乗組のバンクス船の名送たら麦酒百六拾八
箱と清酒ヨロンドンの商人ジャミソンのためふこれを賣
捌ミー勘定書あリ

一七拾武ボント

麦酒四拾八箱代

徳利百四拾四組入を組代拾シルリング主組と徳利
拾二本

一五ポント指シルリング

同五箱代

同拾五組入を組代セシルリング四ペニス

一八拾六ポント指シルリング

同八拾武箱代

同武百四拾六組入を組代セシルリング

一式指ポント

同武拾箱代

同六指組入を組付代六シルリングハペニス

一四ポント

因五箱代

同指五組入を組付代五シルリング四ペニス

一六ポント

因八箱代

同武指四組入を組付代五シルリング

一百六指ハ箱徳利五百四組入

代金百九指三ポント指武シルリング

内諸入用と引くことを通

一四ポント四シルリング

物揚場運上を組付六ペニス

一式ポント指三シルリング四ペニス

此者麦酒を入れて麦拂ひと其代金一百武指を
ポント指武シルリングと入れの運上を分ふ厘ミ割合とみて
まポント指六シルリング四ペニスと拂ひ外に耗用指六シル
リングをかへ前書き高々たる

一指九ポント七シルリンク四ペニス

一安価料差と荷扱引手の割合とて總高の内を割引

一式指六ポント武シルリングハペニス

至引様百六指七ポント九シルリング四ペニス

災難請合の事 イシニアランス

災難請合とハ商人の組合ありて平生無事の時ニ人より割合の金と取テ萬一其人へ災難あれが組合より大金と出一て其損亡と救ふ仕法あり其大趣意ハ一人の災難と大勢小分ち僅の金と棄て大難と遁る訣小て譬へモ今英吉利ヨリ亞米利加ヘ一萬兩の荷物を積送るふ二百両斗の請合賃と拂へモ其船ハ難船そるとも荷主と償を取返べ一又此一萬兩の荷物を二百両小て引請一商人の組合も數千艘の船を請合ふことゆへ其船百艘の内

二艘難船そるとも九十八艘の請合賃と以て二艘の償となせざ損得となき姿以て若一又世間ニ火事難船多く一て請合人ハ始終償金と出矣斗の様ふくハ損亡を甚ども斯く災難の續くふともなく丁度平均一て双方よき様ハ割合となせて〇災難の請合小三通エア王第一人の生涯と請合ふ事此法ハ甚だ入組キムヒトなり素人同士組合と結て若干一組合の内ニ病氣其外災難ふ逢ふ者あきハ組合一統ミテ金を出合せてひきと救ひ又死後ヨリ其妻子と扶助モ

るふとあらず又或も商人小元金を以て組合と立人
の生涯達者の内ニ年々何程かの金を取て若一其
人病氣を煩ひ渡世の出来ざるより死ぬ
までの手當と年々組合より拂戻し又を約束次第
にて死後の妻子と養ふこときあらず又或も商人ニ
組合あリて此組合へ年々積金を納まハ十年う二
十年の限ふと毎年積金の高を減り年限を終ま
金と出さざりて其組合ノ入主其後モ却そ仲間の
割合と取て其身の老後死後の暮向と立る法もあり
都々此請合と年之老若生質の病身と達者と小

由テ年々金と納る高ふも多少あらず又平生より
死後の覺悟と思ひ商人の組合へ金と納め置き
ふ老年ニ及で不幸ふれて妻子を失ひ死後の心掛
き様ふれり一者を夫まで拂ひ一金を自分生涯
の内ニ取返し一安樂の命と終る内とあらず○都て
災難請合の約定ハ其國の政府へ貫たるものにて
萬一其約定ニ付間違のこと起きバ政府の裁判と
受るゆへ約定を了ときも政府へ訴へ夫がゝめ運
上を納るふと至て英吉利にて人の生涯と請合ふ
約定の運上左の如く

請合の金高五十ポント付

運上ニシル半

同五十ポントより百ポント

同五シルリヒグ

同百ポントより五百ポント

同一ポント

同五百ポントより千ポント

同二ポント

同一千ポントより三千ポント

同三ポント

同三千ポントより五千ポント

同四ポント

同五千ポントより以上

同五ポント

第二 家宅諸道具商賣品田畠山林等を請合ひ火事又ハ雷の落ることあはセキモ其損亡と償ふ商人の組合あまこれ正火災請合セイフ其請合賃て

家作の良否場所柄の摸様等小由そ甚だ相違ある
ゆへひ、ふ記一難一

第三 渡海中船の災難を請合ひ萬一其船難船そ
るク又モ賊船ふ掠取るく等のひとあらとふモ船安
井ニ荷物の代金と償ふ仕法あまにき正海上請合
とのふ西洋諸國ニ海上の請合と渡世ニそる商人
の組合多ニ過ぎも其最も盛れ多キ代ハ英吉利の
ロイド乍ニ同國の都ロンドンふロイドの仲間と
て商人の組合あまて諸國の船と請合ひ其仕組甚
だ洪大を呈凡全世界中の港ふ此組合の出店あら

さる所より其出店の者共を始終港ふ住居にて船宿
の出入難船の始末海上風波の模様等と取調べ又
方々みて新艘と打建ることあきべ其善惡をも
見分く一く此とロンドンの本店へ知るゆ一本
店の帳面よハ世界中の船の貯數大小新古善惡船
号并に船頭の姓名よ至るまで事明紳よ記せり故
小何色の船とてもロイドの店ニ行く海上請合の
掛合をそれぞ店の帳面を調べ此船此きバ大大夫
形石田へ請合貨て何程彼船をきを古船よて請合
賃も高一船ど直其相談調ふぬとひとひ又其船

渡海中ニ風波ふ逢ひ荷物と損一て港ニ入ること
れどあれぞ其港ニ居るロイド組合の者共直ニ船宿
へ乘込て其模様正改るゆへ船頭より不正の事も
出来矣都その始末不行届のことより云々此代一
ロードの組合ハ萬國商船の取締とな
者ロイドの組合人數を限らず元金と定
たる者ニあら矣何人よりも金と出一て組合よ
請合ふ少人數よて大金と引請ても萬一の節不
都合ぬゆへ譬へば千兩元金のある者も其金と

一 口より出さざりて二三艘の請合ふ分つ様もせり
 大抵其組合の者一艘の船付一人にて三四百ポントより多くの金高と請合ふ者を一させども組合ひと集きモ一艘の船ニ六十三萬ポントの高と請合ひ一ことあらず組合の多く一して商賣の大なることを推して知るべ一○海上請合の賃銀き船の善惡海上の遠近ふ由そ高下あれ大抵五厘より三分までなり英吉利にて海上請合ニ付政府へ納る運上の割合左の如一

一 英吉利國內の商賣にて海上請合の賃銀一分よ

莫以下をきバ請合の金高百ポントより運上一シルリング六ペニス
 一同斷みて請合の賃銀一分より以上取きモ同百ポントより付運上二シルリング六ペニス
 一外國へ渡海する船にて請合の賃銀七厘五毛より以下をきモ同百ポントより付運上一シルリング三ペニス
 一同断みて請合の賃銀七厘五毛より以上一分五厘より以下をきバ同百ポントより付運上二シルリング六ペニス

一同斷りて請合の賃銀一分五厘以上をきり同百
ポント付運上五シリシング
一海上請合は十二箇月と限る若一の月數と過
きば新ふ約定の證文を認むべし
新ふ運上と取るみとあり

西洋旅案内大尾

每部以此印

為藏版之證



每部以此印

福

4-1

著作

000000.00